

発表日	担当部課（室）名	電話（内線）	発表者職氏名 （担当者職氏名）
5月10日（金）	産業環境部環境推進課	079-664-0285	課長 田中 正広 （主幹 奥藤 啓）

**古生沼・古千本(氷ノ山)の貴重植物を守ります
兵庫森林管理署等と植生保護柵を整備**

氷ノ山後山那岐山国定公園のうち氷ノ山山頂付近に位置する「古生沼」※（高地性湿原）周辺の希少な植物の生態をシカの食害から守るため、令和6年3月28日付けで本市と兵庫森林管理署との間で、植生保護の推進に関する協定を締結しました。兵庫森林管理署と自治体が初めて締結する協定です。

令和6年5月15日（水）に、兵庫森林管理署、養父市（環境推進課・歴史文化財課）など行政が主体となり、研究者らボランティアと連携し植生保護柵の整備を実施します。

※ 古生沼の概要については、添付資料1、2のとおり

氷ノ山山頂付近にある古生沼と古千本と呼ばれる湿地には貴重な植物が自生するも、平成16年7月には、この場所にシカが進入して植物を食い、湿地を踏み荒す状況が見られ、このままでは植物が絶滅することから植生保護柵を設置して保護する取り組みを開始。

これまでは但馬の貴重な植物を保護する活動を行うボランティア団体が主体となり、兵庫森林管理署、養父市などが単独、あるいは小規模に連携し、雪解け後の春には植生保護柵の設置、降雪前の秋には撤去などを実施してきました。

今年度は、協定締結後の初めての取り組みで、兵庫森林管理署、養父市（環境推進課・歴史文化財課）など行政が主体となり、研究者らボランティアと連携し、植生保護柵の設置を次のとおり実施します。

1 実施予定日：令和6年5月15日（水）雨天決行

2 作業行程

- ・午前9時 関宮地域局（養父市関宮）
- ・午前9時30分 大段ヶ平駐車場（養父市鶴縄）
- ・午前11時 古生沼付近で作業

3 参集者

兵庫森林管理署、養父市（環境推進課・歴史文化財課）、研究者らボランティア

協定の内容は、古生沼の高地湿原植物群落や、古千本・千本杉の奥山湿性植物群落における植生保護柵の設置と管理を連携し行うことを中心に、兵庫森林管理署からは資材の提供を受けること、規程の事務処理を緩和すること、相互に異常を通報することなど。

○文化財に関すること

教育委員会教育部 歴史文化財課

担当者 課長 片芝 研作

電話 079-661-9042

○協定に関すること

産業環境部 環境推進課

課長 田中正広 担当者 奥藤啓

電話 079-664-2033

古生沼の概要

所有者 林野庁（国有林）
所在地 養父市大屋町横行及び福定（氷ノ山山頂付近）
指定 兵庫県指定文化財 天然記念物 昭和40年3月16日

古生沼の概要

古生沼は、標高1,510メートルの氷ノ山山頂付近、標高1,498メートルにある湿原である。ヤチスゲ、ツマトリウ、トキソウ、バイケイソウ、マイヅルウ、アカモノ、オオミズゴケ、ヒメミズゴケ、モウセンゴケ、カルカヤ、ワタスゲ、エゾリンドウ、バイケイソウ、コバノトンボソウ、キチドリ、スギゴケ、マンネンスギ、ケイソウ、ランソウなどが湿原に生育する。

西日本で唯一の高地性湿原といわれ、ヤチスゲなどの遺存種が生き残り、湿地性植物が自生している。中部地方以北の亜高山帯、高山帯に分布する草本では、ヤチスゲは南限であり、エゾリンドウは南西限にあたる。

なお、昭和12年8月8日、兵庫県博物学会の招きにより植物学者の牧野富太郎氏が氷ノ山や古生沼において植物調査を実施している。

参考資料出典

『せきのみや』「関宮町の豊かな自然を植物から探ろう 前田常雄」
関宮町教育委員会平成14年7月発行

古生沼のトキソウ(7月)



シカ柵とバイケイソウ(7月)



古千本湿地のあたり(11月)



(別添)

円

位置図
植生保護柵

国有林

四ヶノ仙国有林647林班イ小班外

